

学童疎開

空襲がはげしくなると、子どもたちは空襲の少ない地方の親戚などの所に疎開します。地方に親戚などがいない子どもたちは、学校ごとに集団で地方へ移り住みました。これを学童疎開と言います。親元をはなれて過ごす疎開は、つらいこともたくさんありましたが、みんなで力を合わせて生活しました。

終戦

戦況が悪化し、日本の大都市は次々とB29による空襲を受けます。そして、昭和20年(1945)8月6日には広島、9日には長崎へ原子爆弾が投下され、一瞬で多くの尊い命が奪われました。日本はポツダム宣言を受け入れ、無条件降伏という形で、同年8月15日、長い戦争を終えました。



港区立

港郷土資料館

行ってみよう! 第13号

戦争と人びとの暮らし

港区の小学生はどこに疎開したのかな? 調べてみよう。



疎開中の日記

疎開先の栃木県で小学生が書いた日記。その日のできことや朝昼晩の食事が書かれています。



戦後まもなくの人びとの暮らし

戦争が終わり、人びとは連日続いた空襲から解放されました。しかし、食料や生活用品などは不足し、日々の暮らしはとても苦しいものでした。そのような中、新橋駅周辺には商品を売る人が集まるようになり、新橋マーケットと呼ばれました。法律に違反したヤミ市でしたが、人びとはここでさまざまな物を手に入れ、新たな暮らしの一步をふみ出しました。



罹災証明書



新橋マーケット

(原資料:アメリカ合衆国公文書館蔵)



虎ノ門方面

(表紙の写真)新橋駅周辺(原資料:アメリカ合衆国公文書館蔵)

この辺りは昭和20年(1945)3月10日と5月24日・25日の空襲で、木造の建物の多くが焼けてしまいました。

港郷土資料館利用のご案内

開館時間: 午前9時~午後5時(さわれる展示室は火・金・土の午後0時30分~4時30分)

休館日: 日曜日・祝日・毎月第3木曜日・年末年始・特別整理期間

※7/21~8/31の日曜日・祝日は開館します。

交通: JR「田町」駅下車徒歩5分

都営地下鉄三田線または浅草線「三田」駅下車(A3出口)徒歩2分

都営バス「田町駅前」停留所下車徒歩2分

港区コミュニティバス(ちいばす)「田町駅前」停留所下車徒歩2分

「田町駅西口」停留所下車徒歩3分



港区立 港郷土資料館へ行ってみよう! 第13号

編集・発行 港区立港郷土資料館 〒108-0014 東京都港区芝5-28-4 ☎03(3452)4966

http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse/

『港区立港郷土資料館へ行ってみよう!』のバックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

イラスト:横山真弥 デザイン・印刷:文洋社

平成28(2016)年3月11日発行

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。この印刷物は、古紙を利用した再生紙を使用しています。

刊行物発行番号 27205-7541



港郷土資料館



平成27年(2015)は太平洋戦争が終わって、ちょうど70年目だったのよ。

昭和20年(1945)の終戦後にアメリカ軍が撮影した航空写真だよ。

戦争中はどんな暮らしをしていたのかな?

どこの写真だろう? 建物がずいぶんなくなっているね。



太平洋戦争



日本は、昭和12年(1937)にはじめた中国との戦争(日中戦争)にいきづまり、これを打開するためにアジア南部へ進出しました。しかし、このことでアメリカと対立を深め、昭和16年(1941)12月8日にハワイの真珠湾を攻撃します。太平洋戦争のはじまりです。戦時中、政府はあらゆることを統制し、人びとは不自由な生活をしいられました。また、東京をはじめ全国の主な都市が空襲を受け、多くの人びとが犠牲になりました。

日中戦争はどうしてはじまったのかな？調べてみよう。

港郷土資料館の展示を見て、戦時中の人びとの暮らしを想像してみよう。

戦時中の人びとの暮らし

洋服や食べ物は今と同じように買えたのかな？



配給制

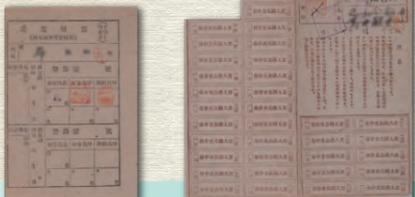
武器などの生産が優先され、徐々に生活物資が不足していきました。そのため、洋服などの衣料品や日用品、米や野菜、魚、調味料などの食料品は配給制になり、買い物は自由にできなくなりました。



衣料切符

衣料品は割り当てられた衣料切符にお金をそえて買いました。「衣料点数切符制早わかり」には、たとえばズボン1着を買うために必要な衣料切符の点数が書かれています。

衣料点数切符制早わかり



野菜原票

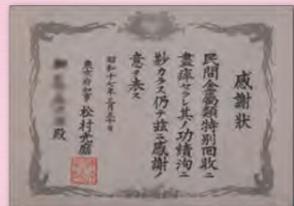
野菜原票は野菜、保存食品購入票は砂糖などの保存食品を買うために必要でした。

保存食品購入票



防衛食容器

金属不足のため、缶詰に代わり磁器に入れた保存食が出まわりました。



金属回収感謝状

武器の生産に必要な金属が不足し、家庭のなべやかまなども回収されました。



東京市隣組回報

隣組や町会で回覧されたお知らせ。旅行をひかえるように呼びかけています。

戦地へ

明治6年(1873)の徴兵令により、男子は20歳になると兵役につく義務がありました。ただし、実際に兵士となったのは徴兵検査に合格し、さらに抽選に当たった人だけでした。しかし、戦争がはげしくなると、それまで兵役につかなくてもよいとされていた大学生なども戦地へおもむくこととなります。そして、多くの兵士が戦地で亡くなりました。



現役兵証書

徴兵検査に合格し、この証書が発給されると兵役につくことになりました。



日章旗

戦地へ行く兵士に贈られたもので、送り出す人びとが寄せ書きをしました。



戦地で使われた水筒と靴

空襲

アメリカの爆撃機B29による日本本土への本格的な空襲は、昭和19年(1944)11月からはじまりました。港区域は同年11月29日から30日にかけて初めて空襲にあい、このあと終戦までたびかさなる空襲を受けます。昭和20年(1945)3月10日、東京東部が空襲で壊滅的な状況になります。一夜にして10万人もの人が亡くなった東京大空襲です。港区域は同年4月15日・16日、5月23日から26日の空襲で大きな被害を受けました。



燈火管制用電球

夜間の空襲にそなえて、室内から外に光がもれないように塗装されています。



焼夷弾

粘着性のある油脂を筒につめた焼夷弾が投下され、炎が木で造られた日本の家々に燃え広がりました。



鉄兜

鉄製の防災用ヘルメット。重さは約1kgあります。



焼けた硬貨

空襲の後に掘り出された硬貨。黒く焼けこげています。



防空壕に持ち込まれたガスランプとラジオ



庭などに防空壕を掘り、空襲の時に逃げ込みました。

空襲が激しくなると、防空壕もあまり役に立ちませんでした。

